

會 務

第 22 卷 第 3 號 昭和 11 年 3 月

役 員 會

第 2 回役員會 (昭 11-2-20)

出席者： 井上會長，平井，辰馬兩副會長，鶴田，小野，平山，萩原，河口，宮長，藤井，堀越，蒲，菊池，後藤，各常議員，青山前會長，古川主事，佐藤主計，金森法制部次長，柴原書記長

1. 第 2 部、第 3 部振興委員會提案を報告せり。
2. 各部の部長依頼の件は改正定款の實施に至る迄從來通りとして依頼したる旨會長より報告ありたり。
3. 振興委員會常置に關する件は常置とせず更めて第 1, 第 2, 第 3 部振興委員會を設置することとせり。會期は約 1 年とし各部の委員數人選は理事一任とせり。
4. 中山前會長申出に依る寄附金受領に關しては正式の申出あれば土木賞牌として其他は中山前會長の御希望に依る資金として受領することとせり。
5. 入退會の件 (1 月中申込)

編 輯 委 員 會

第 3 回編輯委員會 (昭 11-3-2)

出席者： 井上會長，藤井編輯長，岡田，龜田，川口，永田，成瀬，野口，福田各委員

1. 第 22 卷第 2 號所載論說報告に對する討議依頼先を決定せり。
2. 第 22 卷第 2 號所載工事寫眞，論說報告，彙報，抄録に對する謝禮を決定せり。
3. 第 22 卷第 2 號及第 3 號に下記寫眞及び原稿を追加せり。

第 2 號 彙報： 國鉄の雪害概況 (鐵道省工務局保線課)

第 3 號 工事寫眞： 最近竣工せる東京市水道水源の海水防止堰，全通せる三吳線。

討議： 新京吉林國道工事報告 (會，工，佐野俊男) 同上 (著，會，工，米田正文)

抄録： 鋪裝版の側方移設工事 (長瀬)，磁鉄礦を使用せる對重用コンクリート (長瀬)，輾圧コンクリート鋪裝 (長瀬)，英國に於ける下水處理の趨勢 (西村)，使用応力に就て (最上)，梁の燒傷數 (古河)，ドイツ國道の

跨線橋の一例 (住友)，河川を横斷する大水道管の支持法 (玉置)，土堤堰締固法に就て (玉置)，Mississippi 河堰堤のコンクリート配合 (米屋)，沖積層に於ける基礎版の沈下 (米屋)，転動扉の設計解法 (小林)，Norris 堰堤に於けるグラウチング (小林)，基礎の研究に就て (傍島)，モルタル及コンクリートに於ける火山灰の使用に於て (傍島)，塑性変形を考慮せる鉄筋コンクリート断面の計算 (糸川)，萬能土壤試験機に就て (糸川)，Rhein 河に架したる新街路橋に就て (糸川)，鉄筋コンクリート溝橋の 2, 3 の例 (糸川)，振動コンクリートの性質 (村山)，コンクリート拱橋と鋼橋の安全率，(富樫)，米國土木學會の論文賞に就て (藤森)，シールドによる下水道の建設 (村山)。

4. 第 22 卷第 4 號登載論文を下の通り決定せり。

論說報告： 軌條急進に就て (會，工，前橋俊一)，浦戸港漂砂問題研究及港口計畫論 (准，工，山本勝雄)，骨組測量の精度に就て (准 加賀美一二三)

討議： 彈性変位と固体摩擦 (准，工，最上武雄) 同上 (著，會，工，前橋俊一) 測量器の改良に關する一考案 (齊藤有) 同上 (著，會，工，安東功) 汐留驛改築工事に就て (會，工，江藤智) 同上 (著，會，工，佐藤輝雄) 方塊積構造物の安定度に就て (會，工，松尾春雄) 同上 (著，會，工，工藤久夫) 同上 (會，松田健作) 同上 (著，會，工，工藤久夫)。

抄録： 歐洲最高の Chambon 堰堤 (古河)，Norris 堰堤に於ける鑄津セメントコンクリート試験 (玉置)，促進汚泥處理に於ける Oedometer の利用 (松見)，汚水量の時間的变化と下水處理操作 (松見)，コロンビヤ Cartagena 港の新港灣施設 (比田)，壁体フーチングに於ける圧力分布 (比田)，佛國 Cherburg 港の新旅客設備 (比田)，佛國 Dünkirk 港の新泊渠 (比田)，Rhein 河 Pfaffendorf 橋の架換に就て (糸川)，Cleaveland に於ける新汚水處分場 (竹内)。

特許紹介：

5. 各府縣土木部課長，内務省土木出張所長宛彙報原稿を依頼する事とせり。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 35 回委員會 (昭 11-2-21)

出席者： 眞田副委員長，名井，小川，坂井，赤木，各

委員、高柳、栗原、渡邊、小川、坂本各囑託

1. 服部報公會より11年度補助金として金1000円寄贈ありたる旨報告せり。
2. 坂本修君を編輯囑託に依頼することとせり。
3. 其の他本月の編輯事務の報告を爲せり。

第3回工學會大會土木部講演委員會

第3回委員會(昭11.2.17)

出席者：大河戸委員長、藤井工學會講演委員、青木、岩澤、井上、伊藤(宮本代理)、後藤、鈴木、關、萩原、三浦、山口各委員、瀧淵、成瀬、野口、福田各編輯委員。

議題(1)(2)(4)は大河戸、藤井、井上、瀧淵、野口、福田各委員より成る小委員會に於て審議決定せり。

1. 2月17日迄に提出済の論文題目197編、論文梗概175編なり。上に就き論文の種別を決定し次の通り分類せり。

第3部會(応用力学)に屬するもの：10編、第24部會(材料)に屬するもの：12編、第3部會(構造力学)に屬するもの：30編、第5部會(鉄道)に屬するもの：54編、第4部會(一般土木)に屬するもの河川：11編、砂防：3編、港灣：14編、測量：4編、道路：15編、都計：16編、水力：9編、堰堤：9編、上下水：10編計91編、合計197編。

2. 論文梗概を審査せり。
3. 論文報告の發表の方法は講演可能の者は全部當日15分以内を以て發表せしむる事とし、講演不能の者は講演會後會誌等の適當なる機關を以て發表せしむる事とせり。
4. 講演部會プログラム作整に就き打合せり。
5. 論文前刷印刷に關し囑託3名位を依頼する事とせり。

6. 先に本會關係講演會場は1室を工學會に要求したるも、講演者多數の爲3室を要求する事とせり。

7. 講演會に於ける講演可能不能の別を至急問合せ、論文全文未提出者には全文を本會誌2頁として3月末日迄に必ず提出する様通知する事とせり。

第4回委員會(昭11.2.24)

出席者：井上會長、大河戸委員長、藤井工學會講演委員、古川工學會見學委員、青木、河口、萩原、平山、三浦、宮本各委員、岡田、野口、福田各編輯委員、柴原書記長。

1. 土木學會關係講演部會日程を會告欄掲載の通り打合せり。

2. 各部會に座長、進行係を依頼する事とし、座長は前會長、副會長中より、進行係は常議員、編輯委員、第3部振興委員中其他より夫々各部門午前午後に對する部會に對し依頼する事とし、その振當は次回委員會にて定むる事とせり。

3. 大會プログラムを全員に配布すると同時に地方委員並に關係司長に對し大會參加勧誘方を依頼する事とせり。

4. 工學會大會總會に於ける本會代表講演は井上會長の「軌近に於ける本邦土木事業の情勢」とし、その資料として講演委員會各部主査に於て夫々關係土木事業の情勢を調査提出する事とせり。

5. 日本工學會理事長無線放送の爲本會より講演資料提出の件は4.に於ける資料出來たる後適當に纏めて提出する事とせり。

6. 各講演者並に一般參會者の上司に大會參加の爲便宜を取計はれたき旨依頼する事とせり。

日本工學會記事

○昭和11年2月14日午後4時30分丸の内日本工業俱樂部に於て第3回工學會大會委員講演委員第3回打合せ會を開催し下記事項の申合せをなしたり。

- 1) 通俗講演に關する件、
- 2) ラヂオ放送に關する件、
- 3) 論文に關する件、其の他懇談事項

○講演委員打合せ會散會後午後9時より講演委員小委員會を開催し、通俗講演に關する件に就き申合せを爲したり。

○昭和11年2月19日午後4時30分日本工業俱樂部に於て日本工學會臨時社員總會を開催し下記事項を決議せられたり。

1. 社員入會申込に關する件：(イ)社団法人日本鑄物協會(日本鉄鋼協會並に造船協會推薦)並に社団法人日本冷凍協會(機會學會並に衛生工業協會推薦)より夫々本會社員として入會方申出たる處兩協會共本會定款所定の資格を有するものと認めらるゝを以て其の入會を認むること。(ロ)鑄接協會(土木學會並に建築學會推薦)よりも同様本會社員として入會方申出たる處同協會は目下本會定款所定の資格獲得手續中の趣なるを以て上記資格を具備するに至りたる曉には本會社員として入會することを認むること。

2. 其の他懇談事項

○昭和11年2月25日午後4時30分日本工業俱樂部

部に於て第3回工學會大會見学係第3回打合會を開催し見学に関する事項に就き種々打合せをなしたり。

土木學會關西支部記事

○昭和11年2月30日午後5時30分より中央電氣俱樂部に於て第2回役員會を開き幹事長島崎孝彦君外15名出席下記事項を協議せり。

- 1. 昭和11年度事業計畫の件
- 2. 土木用材總覽11年度版發行の件

其の他幹事長より本部及支部役員改選の結果を報告せり。

その他の記事

○昭和11年2月18日文部大臣及東京府知事宛昭和10年度事業報告、收支計算、貸借對照表及會員數を届出せり。

○昭和11年2月18日文部大臣及東京府知事宛定款改正の認可を申請せり。

○昭和11年2月19日通常總會の決議による資産總額及理事変更の登記を了せり。

○昭和11年3月4日理事會を開き役員會に於て一任せられたる第1,2,3部振興委員會委員は下記諸君を依頼せり。

第1部委員：中山秀三郎君、野村龍太郎君、原田貞介君、古川阪次郎君、岡野昇君、田邊翔郎君、中川吉造君、那波光雄君、名井九介君、眞田秀吉君、久保田敬一君、青山士君、丹羽勉彦君、八田滋明君、眞島健三郎君、前川貫一君、大河戸宗治君、米元晋一君、草間 偉君

第2部委員：阿曾沼均君、井上隆根君、内海清温君、河西定雄君、金子源一郎君、榎木寛之君、久保綱太郎君、兒玉靜雄君、田中豊君、高橋三郎君、徳善義光君、沼田政矩君、三浦七郎君、宮本武之輔君、山口昇君、山下輝雄君、古川淳三君、佐藤利恭君、鈴木雅次君、金森誠之君、荻野廣君、木幡長命君、榊井照藏君、稻葉通彦君、大島末彦君、榎部保君。

第3部委員：野坂孝忠君、伊藤剛君、内山實君、小澤久太郎君、緒形重吉君、太田尾廣治君、岡崎三吉君、奥田秋夫君、佐藤輝雄君、須之内文雄君、瀬戸政章君、千秋邦夫君、瀧山養君、立花次郎君、富樫凱一君、南保賀君、服部高景君、原田忠次君、船越春雄君、本間仁君、松井達夫君、高木進君。

入 會 々 員

(昭11-2-20 手続了)

氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先	氏 名	勤 務 先
會 員					
落合 盛君	安邊電氣株式會社	藤田 宗光君	都市計畫宮崎地方委員會	笠井 通義君	高知縣電氣局
久世 秀明君	内務省妻伊川改修事務所	宮崎 貞一君	關鉄建設局工事課	石川 榮耀君	都市計畫東京地方委員會
光藤 康明君	大阪府廳土木部	大島 末彦君	鐵道省工務局保線課		
准 員					
青山喜代治君	東京電燈會社工務課	木林 公君	土木請負業	白石小十郎君	東京府第二道路改修事務所
赤司 壽夫君	京都府京都土木事務所	木村孝太郎君	東京市水道局擴張課	城井 義夫君	關東州廳土木課
荒川 清作君	札幌治水事務所	清水 正君	關東州廳土木課	杉山 光郎君	大同電力大阪支店
池田 章君	株式會社團組	小林 清君	大井川電力會社	川賀 秀和君	山梨縣廳土木課
市ヶ谷金兵衛君	東京府第二道路改修事務所	小松新次郎君	帶廣治水事務所	竹村 吉惠君	滿鉄四平街建設事務所
岩崎 福壽君	岡山縣廳土木課	小宮山秀則君	帯室林野局本谷支局	豊島 貞夫君	内務省滋賀國道改良事務所
尾家 馨君	内務省滋賀國道改良事務所	後藤 繁雄君	札幌鐵道局工務課	南部 稷君	徳山電達株式會社
大賀 滋樹君	關東州廳土木課	佐々木信一君	東京府土木部河港課	長谷川盟輔君	京都府京都土木事務所
柏倉健一郎君	東京市水道局擴張課	佐瀬 七郎君	茨城縣土木課	間 藤吉君	大井川電力株式會社
神岡 忠助君	内務省宮崎國道改良事務所	清水 一君	滿洲國道局牡丹江建設事務所	日野 龜雄君	秋田縣廳土木課
木津英二郎君	滿洲國道牡丹江建設事務所	島田 博守君	鹿島 組	藤本 正人君	内務省滋賀國道事務所

松垣一夫君
 毛利佳行君 滿洲國道社丹江建設事務所
 森實清次郎君 帝國電力株式會社

森山隆富君 淺野セメント大阪支店
 八賀信吉君 內務省宮崎國道改良事務所
 渡邊重修君 內務省大阪土木出張所

井手 懋君 川崎市役所
 大波 約君 鐵道省工務局保線課

學 生 員

淺沼 靖君 名古屋高工
 大久保和彦君 北海道帝大
 大塚邦一君 仙臺高工
 加藤 清君 ,,
 加藤 孝君 ,,
 金子輝男君 ,,
 城阪敏一君 金澤高工

菊田米三君 名古屋高工夜學部
 桑木一郎君 日大高工
 佐藤寛三郎君 ,,
 佐藤 武君 北大土木專門部
 下平伊那三君 日大工學部
 竹内康和君 日大土木專門部
 中村亥平君 東京帝大

野田泰雄君 東京帝大
 茨田孔太郎君 日大高工
 平野二郎君 熊本高工
 牧田林藏君 日大專門部
 吉崎一生君 熊本高工
 米澤佳年君 日大高工
 三谷進君 早稻田高工

轉 格 會 員

高崎常次郎君 谷口忠君

土木學會々員數

(昭 11・2・20 現在)

會員	准員	學生員	特別員	贊助員	合計
2 707	2 475	623	2	18	5 825

図 書 及 び 雜 誌

(昭和 11 年 2 月中)

交 換

鉄 と 鋼 第 22 年 第 1 號 日本鉄鋼協會
 都市問題 第 22 卷 第 2 號 東京市政調査會
 道路の改良 第 18 卷 第 2 號 道路改良會
 水道協會雜誌 11 年 2 月 第 33 號 水道協會
 造船協會 11 年 1 月 第 166 號 造船協會
 衛生工業會誌 第 10 卷 第 1 號 衛生工業協會
 建築と社會 第 19 輯 第 2 號 日本建築協會
 技術日本 11 年 2 月 第 162 號 日本技術協會
 港 灣 第 14 卷 第 2 號 港 灣 協 會
 建築雜誌 第 50 輯 第 608 號 建築學會
 電氣會雜誌 { 第 56 卷 第 2 册 電氣學會
 第 571 號 }
 機械學會 第 39 卷 第 226 號 機械學會

工業化学雜誌 { 第 39 編 第 2 册 工業化学會
 第 456 號 }
 業務研究資料 { 第 24 卷 第 1 號 ~ 鐵道大臣官房研究所
 第 3 號 }
 建築雜誌 第 50 輯 第 609 號 建築學會
 滿洲建築雜誌 第 16 卷 第 2 號 滿洲建築協會
 銲接協會誌 { 第 4 卷 第 1 號 ~ 第 6 號 銲接協會
 第 5 卷 第 1 號 ~ 第 6 號 }
 A Magyar Mernok. es Epitesz Egylet Kozlonye,
 LXX. kotet, 1-6 szam. Societa Ungh. degli In-
 generi ed Architetti.
 Annales de Travaux Public, December 1936,
 Minister des Travaux Publics de Belgique.
 シヤム工學會誌 第 7 卷 第 1 ~ 2 號 シヤム工學會

寄 贈

區 劃 整 理 第 2 卷 第 2 號 土 地 區 劃 整 理 研 究 會
 鑄 物 第 8 卷 第 2 號 日 本 鑄 物 協 會
 滿 洲 電 氣 協 會 報 11 年 1 月 第 34 號 滿 洲 電 氣 協 會
 セメント界彙報 2 月 號 第 335 號 {日本ポルトランド
 セメント同業會
 學 報 第 5 卷 第 1 號 東 京 工 業 大 学
 工 学 11 年 2 月 第 258 號 東 京 工 学 社
 國 立 公 園 第 8 卷 第 2 號 國 立 公 園 協 會
 新 京 衛 生 工 業 會 誌 11 年 1 月 第 1 號 滿 洲 技 術 協 會
 事 業 告 報 昭 和 10 年 度 服 部 報 公 會
 水 理 本 間 仁
 工 業 現 勢 第 5 卷 第 2 號 {東京工業大学工業
 調査部
 事 業 報 告 昭 和 9 年 後 期 {日本學術振興會学
 術部
 三 菱 電 機 (特 輯 號) 第 12 卷 第 1 號 三 菱 電 機 株 式 會 社
 下 關 港 修 築 工 事 誌 內 務 省 下 關 土 木
 出 張 所

鉄 骨 構 造 第 4 卷 コ ロ ナ 社
 沖 電 氣 時 報 第 3 卷 第 1 號 沖 電 氣 株 式 會 社
 工 事 畫 報 第 12 卷 第 2 號 工 事 畫 報 社
 朝 鮮 河 川 調 査 年 報 昭 和 7 年 度 朝 鮮 總 督 府
 土 木 建 築 雜 誌 第 15 卷 第 2 號 シ ビ ル 社
 日 立 機 械 評 論 11 年 1 月 第 23 號 日 立 評 論 社
 The Tokyo Underground Railway 遠 武 勇 熊
 帝 國 学 士 院 紀 事 第 13 卷 第 1 號 帝 國 学 士 院
 鉄 道 技 術 第 10 卷 第 3 號 鉄 道 技 術 社
 日 立 評 論 第 19 卷 第 2 號 日 立 評 論 社
 工 学 部 紀 要 第 20 册 第 12 號 東 京 帝 國 大 学
 海 外 セ メ ン ト 事 情 第 4 卷 第 2 號 {日本ポルトランド
 セメント同業會
 工 学 部 紀 要 第 8 册 第 1 號 九 州 帝 國 大 学
 エ ン ジ ン ー 第 158 號 11 年 1 月 都 市 工 学 社
 信 號 第 9 卷 第 1 號 信 號 會

購 入

Der Bauingenieur, Januar 1936, 17 Jahrgang,
 Heft 1~6.

Beton und Eisen, Januar 1936, 35 Jahrgang, Heft
 1~3.

Die Bautechnik, Januar 1936, 14 Jahrgang, Heft

2~5. Februar 1936, 14 Jahrgang, Heft 6~7.

Engineering News Record, January 1936, Vol.
 116, No. 2~5.

Le Genie Civil, Jan. 1936, Tome CVIII, No.
 3~6.

會員 安達長次郎君昭和 11 年 2 月 2 日逝去せられたり本會は弔詞を靈前に呈し
 恭しく哀悼の意を表したり。

會員 今井義和君, 小西政喜君, 鷹鷲甲藏君, 竹内季一君, 服部省三君の訃報に接
 す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

准員 高瀬太吉君, 高橋才二君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

賛助員 岩井勝次郎君, 内山熊八郎君の訃報に接す。本會は恭しく哀悼の意を表す。

正 誤 表

地下鉄道路線路に於ける線路の間隔及び隧道の大きに関する調整々備に就て

(第 21 卷第 12 號, 第 22 卷第 1 號及び第 2 號所載)

頁	行	誤	正
(第 1 編) 1	標題英文 1	Troper	Proper
"	" 2	Punnel	Tunnel
6	5	1 942	1.942
"	22	88 %	8.8 %
7	24	曲線抵抗及び勾配抵抗の和	(曲線抵抗及び勾配抵抗の和)
8	11	341 %	34.1 %
"	21	4 316 kg/t	4.316 kg/t
"	26	81 77 km	81.77 km
13	下より 2	(70 mm)	(70 mm)
14	8	無駄足	蛇足
"	19	擴大スベキ	重複せるを以て 1 つ消すこと
15	4	S	s
"	5	S	s
"	9	S/2	s/2
16	19 行公式の分母	182 R ²	128 R ²
18	5	V ₂	V ₁
22	9	使	便
"	下より 1	對の	1 對の
23	下より 2	$L_2 = D \cos \alpha - \sqrt{R_0^2 - D^2 \sin^2 \alpha} + R_0$	$L_1 = D \cos \alpha - \sqrt{R_0^2 - D^2 \sin^2 \alpha} + R$
27	下より 5	及び k	V 及び k
"	下より 2	T.C	P.T.C
28	10	$+\frac{1320}{\phi^{08}}$	$+\frac{\phi^3}{1320}$
"	11	$\frac{15\ 324 \times 10^{12}}{\phi^{08}}$	$\frac{153\ 245 \times 10^{12}}{\phi^{08}}$
"	13	$\frac{dx}{dl} \cos \phi$	$\frac{dx}{dl} = \cos \phi$
29	13	方程式の右邊末項の次に	+...を記上すること
"	下より 3	(15) 式	(39) 式
(第 2 編) 37	4	精密に測定せる	精密に製図せる
38	14	46 mm も	46 mm をも
41	20	$133 \times \frac{100}{15}$	$133 \times \frac{100}{14}$
47	下より 9	以て	を以て
"	下より 5	車輪	車輪
49	12	如く,	如き
50	4	r ₀ '	r ₀ '
51	下より 1	{(l+n) ² - μl ² }	{(l+n) ² - μl ² }
58	26	論じ	論じ
60	3	V ₁ or V ₂ , V ₃	v ₁ or v ₂ , v ₃
"	5	Z = G + 2(V ₁ or V ₂)	Z = G + 2(v ₁ or v ₂)
"	"	Y = H + V ₃	Y = H + v ₃

頁	行	誤	正
63	15	(S)	(s)
(第3編) 63	2	w	IV
66	表-8, 末行第3欄	6.12	6.12
"	表-9, 第1行8欄	$\frac{(l+2x')^2+(4R-f)f}{\sqrt{(l+2x')^2+(4R+f)f}}$	$\frac{\sqrt{(l+2x')^2+(4R-f)f}}{\sqrt{(l+2x')^2+(4R+f)f}}$
67	図-28, θ° の算式の分子	$\sqrt{(l+2x')^2+(4R+f)f}$	$\sqrt{(l+2x')^2+(4R-f)f}$
69	表-10, 第7欄1行目の数字	4-54-0	4°-54'-0''
"	" , 第17欄2行目の数字	64.091	64.071
70	表-12, 第3欄2行目の数字	35.393/3.337	36.393/3.337
"	" , " 5 " "	44.07/5.098	44.007/5.098
"	" , " 6 " "	46.179/5.673	46.177/5.673
"	" , 第7欄2 " "	47.799/1.407	47.797/1.407
72	表-16, 第2欄2行目の数字	798.65	798.665
73	表-17, 第5欄末行目の数字	11 331.9 2	11 331.932
"	表-18, 第8欄4行の数字	4-58-8.7	4-53-8.7
"	" , 末欄下より2行目	4-48-37.5	3-48-37.5
74	図-30及び31, θ° の算式の分子	$\sqrt{(l+2y')^2+(4R+f)f}$	$\sqrt{(l+2x')^2+(4R-f)f}$
"	8	前掲図-11 及び 12	表-13 及び 14
76	下より 3	$e=14500/R$ (mm)	$e=14500/R$ (mm)
79	14	排ふ	拂ふ
81	下より 2	に限定	は限定
84	2	(I)	I (1)
86	9	3% 以上の	(3% 以上の
"	14	勾配率と	勾配率とも
"	17	独自の	獨特の
"	22 及び 23	{東京高速線 巴里南北線 全曲線	東京高速線 巴里南北線 全曲線
87	I (2) 表, 第2欄末行	4.316	4.316
90	下より 11 行	10%	1.0%
91	中央部の表第1欄見出し2行目	=500 ^{mm})	=50 mm)
97	IV(1), (i) 表, 右より2欄上 より6行目	$1500+E_1-\frac{s}{2}$	$1500+E_1-\frac{s}{2}$
98	IV(1), (ii) 表, 第6欄4行	$1500+E_4+\frac{s}{2}$	$1500+E_4+\frac{s}{2}$
"	" , " 7 行	$(\eta+3650 \text{ mm})$	$(\eta_0=3650 \text{ mm})$
"	" , 右より3欄5行	$1500+E_1-\frac{s}{2s}$	$1500+E_1-\frac{s}{2}$
99	IV(1), (iii) 表, 第6欄5行	49.007/4.507	47.007/4.507
100	IV(2), (ii) 表, 第5欄6行		

東洋工業會議の感想

(第22巻第1號所載)

頁	行	誤	正
16	下より 6	紡織機	紡織品

會 告

第 3 回 工 学 會 大 會 案 内

来る 4 月 4 日より 5 日間工学会主催に依る第 3 回工学会大会が東京に於て下記日程に依り開催されますから、多数会員の御参加を希望致します。

土 木 学 會

第 3 回 工 学 會 大 會 日 程

- 總 會 4 月 4 日 (土) 午前 9.00~12.00, 午後 1.30~6.00 於東京帝國大学大講堂 15 学会代表講演の内
土木学会代表講演(午前)「軌近に於ける本邦土木事業の情勢」土木学会々長 工学士 井上秀二君
- 部 會 4 月 5 日及 6 日午前 9.00~12.00, 午後 1.00~4.30 於東京帝國大学工学部

土 木 学 會 關 係 講 演 部 會

部 會	4 月 5 日 (日)		4 月 6 日 (月)		室
	午 前 (9.00~12.00)	午 後 (1.00~4.30)	午 前 (9.00~12.00)	午 後 (1.00~4.30)	
第 2(A) 部會	—	—	応 力・水 理	—	法文經学部 11 號室
第 3(B) 部會	橋梁及構造物	橋梁及構造物	—	—	工 学 部 5 號室
第 4 部 會	河 川・砂 防	港 灣・測 量	道 路	都 市 計 畫	工 学 部 1 號室
同 上	—	—	水 力・堰 堤	堰 堤・上 下 水	工 学 部 5 號室
第 5 部 會	鉄 道	鉄 道	鉄 道	鉄 道	工 学 部 2 號室
第 24 部 會	—	材 料	—	—	法文經学部 7 號室

工業展覽會 4 月 4 日, 5 日, 6 日の 3 日間午前 9 時より, 4 日は午後 6 時, 5 日及び 6 日は午後 4 時迄
於東京帝國大学大講堂, 同第 2 食堂及附近屋外

通俗講演會 4 月 6 日(月)及び 7 日(火)各午後 6 時開會, 於仁壽講堂, 聴講無料(入場は聴講券所持者に限る
工学会大会出席者は大会出席章を以て之に代へる)

土木に関する講演 「とんねるの話」 土木学会々員 工学士 平山復二郎君

見 学 4 月 7 日(火), 8 日(水), (3 月 20 日迄の申込者に限る)

土 木 学 會 懇 親 晚 餐 會 通 知

第 3 回工学会大会開催を機会に土木学会懇親晚餐會を下記次第に依り開催致します。

日 時 4 月 6 日(月) 午後 6 時, 會 場 日比谷三信ビル東洋軒, 會 費 金 ¥ 2.50

注意 工学会大会参加申込は 3 月 20 日迄であります但土木学会懇親晚餐會のみの参加申込は 3 月 31 日迄受付
付けます。申込は工学会大会次第書添付の振替用紙を御利用下さい。

會 告

土木學會定款及規則改正案は昭和 11 年 2 月 14 日の通常總會に於て決議せられ、3 月 19 日主務官廳の認可を得ましたから茲に掲載致します。

土 木 学 會

土 木 学 會 定 款

第 1 章 總 則

- 第 1 條 本會ハ土木工学ノ進歩及土木事業ノ發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第 2 條 本會ハ社團法人ニシテ土木學會ト稱ス
- 第 3 條 本會ハ第 1 條ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ
1. 調査及研究
 2. 會誌其他圖書印刷物ノ刊行
 3. 講演會講習會ノ開催
 4. 見学視察
 5. 諮問ニ応シ又ハ建議ヲナスコト
 6. 其他本會ノ目的ヲ達スルタメ必要ナリト認メ常議員會ニ於テ決議シタル事項
- 第 4 條 本會ハ事務所ヲ東京市麹町區丸ノ内 3 丁目 6 番地ニ置ク
- 第 5 條 本會ハ必要ニ応シ地方ニ支部ヲ設クルコトヲ得
- 第 6 條 本定款施行ニ關シ必要ナル事項ハ土木學會規則ヲ以テ之ヲ定ム
土木學會規則ノ變更ハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
- 第 7 條 本定款ヲ變更セムトスルキハ全會員 1/10 以上出席シタル總會ニ於テ出席會員 3/4 以上ノ同意ヲ得且主務官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス但シ第 4 條ノ事務所ノ位置ヲ東京市内ニ於テ変更スル場合ニ限り總會ノ決議ニ代フルニ常議員會ノ決議ヲ以テスルコトヲ得

第 2 章 會員、名譽會員、其他

- 第 8 條 會員ハ左ノ資格ノ一ニ該當スル者タルコトヲ要ス
1. 土木工学専門ノ教育ヲ受ケ 3 年以上其業務ニ從事シタル者
 2. 土木専門ノ技能ヲ有シ 5 年以上業務ニ從事シタル者
 3. 學識經驗ヲ有シ土木ノ業務ニ關係アル者
- 第 9 條 土木工学及土木事業ニ關シ功績特ニ顯著ナル者ハ總會ノ決議ニ依リ名譽會員トシテ之ヲ推舉スルコトヲ得
名譽會員ニ推舉セラレタル者ハ會員ト同等ノ權利ヲ享有ス
- 第 10 條 本會ニ特別贊助員準員及學生員ヲ置クコトヲ得其資格及權利義務ハ土木學會規則ヲ以テ之ヲ定ム
- 第 11 條 會員タラムトスル者ハ所定ノ入會申込ヲ爲シ常議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス
- 第 12 條 會員ニシテ退會セムトスル者ハ其義務ヲ完了シタル後其旨ヲ届出ツヘシ
- 第 13 條 會員ニシテ 1 年以上會費ノ納付ヲ怠リタルキハ常議員會ノ決議ヲ經テ其權利ノ行使ヲ停止スルコトヲ得
- 第 14 條 會員ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ常議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得
1. 會費息納 2 年ニ及フ者
 2. 本定款及土木學會規則ニ違背シ或ハ本會ノ名譽ヲ毀損スルノ行爲アリタル者
- 第 15 條 會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求ムルコトヲ得ス

第 3 章 入 會 金 及 會 費

- 第 16 條 入會ノ承認ヲ得タル會員ハ土木學會規則ノ定ムル處ニヨリ入會金ヲ納付シ會費ヲ負擔スルモノトス

第 17 條 名譽會員ハ會費ノ納付ヲ要セス

第 4 章 役 員

第 18 條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- | | | | |
|--------|-----|----------|------|
| 1. 會 長 | 1 名 | 2. 副 會 長 | 2 名 |
| 3. 理 事 | 9 名 | 4. 常 議 員 | 20 名 |

第 19 條 理事ノ内 3 名ハ會長及副會長ヲ以テ之ニ充テ 6 名ハ常議員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム

第 20 條 本會ノ役員ハ名譽職トス

第 21 條 會長ハ帝國在住會員中ヨリ會員ノ投票ヲ以テ之ヲ選舉ス

副會長及常議員ハ東京府及其隣接縣在住會員中ヨリ會員ノ投票ヲ以テ之ヲ選舉ス

同段ノ投票ヲ得タル者 2 人以上アリテ定員ヲ超過スルトキハ年長順ヲ以テ當選者ヲ定ム

第 22 條 會長ノ任期ハ 1 年トシ通常總會ヨリ翌年ノ通常總會迄トス

副會長及常議員ノ任期ハ 2 年トシテ通常總會ヨリ翌々年ノ通常總會迄トシ毎年其半數ヲ改選スルモノトス

本條ノ役員ハ同 1 名稱ノ役員ニ重任スルコトヲ得ス

第 23 條 常議員中ヨリ互選シタル理事ノ任期ハ 1 年トス但シ再選スルコトヲ妨ケス

第 24 條 常議員中缺員ヲ生シタルトキハ常議員會ニ於テ次點者ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得

補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

役員ハ任期満了後ト雖モ後任者ヘノ事務引継ヲ了スル迄其職務ヲ行フコトヲ要ス

第 25 條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理シ總會及常議員會ヲ招集シテ之ヲ議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ就任順ニ依リ之ヲ職務ヲ代理ス

理事ハ會務ヲ處理シ常議員ハ第 33 條ニ依リ會務ヲ審議ス

第 5 章 總會常議員會理事會

第 26 條 通常總會ハ毎年 2 月之ヲ開ク

臨時總會ハ左ノ場合ニ之ヲ開ク

1. 常議員會ニ於テ必要ナリト認メタルトキ
2. 全會員 1/20 以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シ請求アリタルトキ

第 27 條 總會ノ招集ハ開會 2 週間前ニ其日時場所及議題ヲ掲載シタル本會ノ會誌又ハ書面ヲ以テ之ヲ全會員ニ通知スルモノトス

第 28 條 總會ノ議事ハ特ニ定ムルモノヲ除キ出席者ノ過半數ノ同意ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ議長ノ決スルコロニ依ル

第 29 條 總會ニ出席セサル會員ハ書面ヲ以テ又ハ出席會員ニ對スル委任狀ニヨリ表決ヲナスコトヲ得

前項ニヨリ表決シタル者ハ之ヲ出席者ト看做ス

第 30 條 總會ニ於テ出席者ノ 3/4 以上ノ同意アルトキハ第 6 條及第 7 條ノ場合ヲ除クノ外豫メ通知セザリシ事項ニツキ決議ヲナスコトヲ得

第 31 條 常議員會ハ會長副會長及常議員ヲ以テ之ヲ組織ス

支部長ハ常議員會ニ出席シテ其決議ニ加ハルコトヲ得

第 32 條 常議員會ハ會長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ常議員 6 名以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シ請求アリタルトキ之ヲ開ク

理事會ハ會長ニ於テ會務遂行上必要アリト認メタルトキ之ヲ開ク

第 33 條 常議員會ニ附議スヘキ事項左ノ如シ

1. 本定款及土木學會規則所定ノ事項
2. 總會ニ於テ常議員會ニ委任シタル事項
3. 其他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第 34 條 常議員會ハ其權限ノ一部ヲ理事會ニ委任スルコトヲ得

第 35 條 常議員會ノ議事ハ會長副會長及常議員半數以上出席シ出席者ノ過半數ノ同意ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スルコロニ依ル

第 36 條 名譽會員及前會長ハ常議員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第 6 章 資 産 及 會 計

第 37 條 本會ニ基金ヲ置ク

基金ニ編入スヘキモノニツキテハ一時納付ノ會費指定寄附金及毎年度歳計剩餘金中ヨリ常議員會ノ決議ニ依リ之ヲ定ム

基金ハ常議員會ノ決議スル方法ニ依リ之ヲ管理ス

第 38 條 本會ノ經費ハ會費基金ヨリ生スル收入寄附金其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第 39 條 本會ノ會計年度ハ曆年ニ依ル

第 40 條 本會ノ經費ハ毎年度豫算ヲ定メ年度開始前常議員會ノ承認ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ經費ハ年度終了後之カ決算ヲナシ次ノ通常總會ニ報告シテ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第 7 章 附 則

第 41 條 昭和 11 年ノ通常總會ニ於テ決議シタル定款変更ニ基キ増員セラルヘキ常議員 6 名ノ選舉ハ本定款及規則認可後 1 ヶ月以内ニ施行シ其結果ヲ土木學會誌ニ掲載シ總會ノ報告ニ代フルモノトス

第 42 條 選舉セラレタル 6 名ノ常議員中抽籤ヲ以テ定メタル 3 名ノ任期ヲ昭和 12 年ノ通常總會迄トシ常議員中ヨリ互選セラルヘキ理事 6 名ノ任期亦同シ

土 木 学 會 規 則

第 1 章 會 員

第 1 條 會員タラムトスル者ハ制規ノ入會申込書ニ姓名生年月日住所職業履歷概要ヲ記載シ會員 1 名ノ紹介ヲ以テ申込ヲ爲スベシ

第 2 條 前條ニ依リ入會申込アリタルトキハ常議員會ニ於テ其資格ヲ審査シ之ヲ承認シタルトキハ其旨申込者ニ通知スルモノトス

第 3 條 會員トシテ入會承認ノ通知ヲ受ケタル者ハ所定ノ入會金ヲ拂込ムベシ

前項ノ入會金ノ拂込ヲ受ケタルトキハ其氏名ヲ會員名簿ニ登録ス

第 2 章 特別員, 贊助員, 准員, 學生員

第 4 條 特別員ハ土木ノ事業ニ關係アル自然人ノ團體又ハ法人ニシテ本會ノ目的ヲ贊助スル者トス

前項ノ特別員ハ其代表者ヲ定ムルコトヲ要ス

代表者ノ員數ハ一級 3 人以内二級 2 人以内 3 級 1 人トス

代表者ヲ変更シタルトキハ直チニ其旨届出ツベシ

第 5 條 贊助員ハ本會ノ趣旨ヲ賛成シテ一時ニ金 300 円以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ寄附シタル者トス

第 6 條 准員ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者タルコトヲ要ス

1. 工学専門ノ教育ヲ受ケタル者

2. 土木ノ業務ニ經驗アル者

第 7 條 學生員ハ土木工学専門ノ學校ニ在学中ノ者タルコトヲ要ス

第 8 條 定款第 11 條乃至第 15 條並本則第 1 條及第 2 條ハ特別員准員及學生員ニ又本則第 3 條ハ准員及學生員ニツキ之ヲ準用ス

第 9 條 特別員ノ代表者ハ會員ト同等ノ權利ヲ享有ス

贊助員准員及學生員ハ會務ノ議定ヲ除ク外會員ト同等ノ權利ヲ享有ス

第 10 條 准員カ會員ニ又ハ學生員カ准員若クハ會員ニ資格ヲ変更セムトスルトキハ入會ノ手續ヲ準用ス

第 3 章 入 會 金 及 會 費

第 11 條 會員准員及學生員ノ入會金ハ左ノ通りトス

1. 會 員	金 5 円	2. 准 員	金 3 円
3. 学 生 員	金 1 円		

第 10 條ニ依リ資格ノ変更ヲ承認セラレタル者ハ入會金ノ差額ヲ要セス

第 12 條 會費ハ毎年 3 月及 9 月ノ 2 回ニ分納スベシ

第 13 條 會員特別員准員及學生員ノ會費ハ左ノ通りトス

1. 會 員	年額金 12 円	2. 特別員	<table border="1"> <tr> <td>一級年額金</td> <td>500 円以上</td> </tr> <tr> <td>二級</td> <td>300 円</td> </tr> <tr> <td>三級</td> <td>100 円</td> </tr> </table>	一級年額金	500 円以上	二級	300 円	三級	100 円
一級年額金	500 円以上								
二級	300 円								
三級	100 円								
3. 准 員	年額金 9 円	4. 學 生 員	年額金 6 円						

會員ニシテ一時ニ金 120 円ヲ納付シタルモノハ爾後會費ノ負擔ヲ要セズ

第 14 條 入會シタル者又ハ資格ヲ變更シタル者ハ入會又ハ資格變更ノ月ヨリ月割ヲ以テ其資格ニ相當スル會費ヲ納付スベシ

第 4 章 役 員 選 舉

第 15 條 會長副會長及常議員ノ選舉ハ本會所定ノ無記名連記式投票用紙ヲ用ヒ毎年 1 月末日迄ニ本會ニ送達シ常議員會ニ於テ之ヲ開票シ其結果ヲ通常總會ニ報告スルモノトス

第 5 章 會 務

第 16 條 本會ハ會務分掌ノタメ總務 經理 編輯 調査 法制 東亞ノ 6 部ヲ設ク

第 17 條 總務部ハ講演講習見學視察他學協會及國際會議トノ連絡宣傳紹介文書其他一般庶務ニ關スル事項ヲ掌ル

第 18 條 經理部ハ豫算決算金錢物品ノ出納保管事業資金ノ調達其他會計ニ關スル事項ヲ掌ル

第 19 條 編輯部ハ會誌圖書其他出版ニ關スル事項ヲ掌ル

第 20 條 調査部ハ學術上ノ調査及研究標準規格ノ制定其他各種ノ調査ニ關スル事項ヲ掌ル

第 21 條 法制部ハ行政 教育 其他法規制度ニ關スル事項ヲ掌ル

第 22 條 東亞部ハ東亞各國ノ技術連絡留學生ノ誘致指導資源開發文化建設ニ關スル調査研究事項ヲ掌ル

第 23 條 各部ノ部長ハ理事中ヨリ會長之ヲ選任ス

第 6 章 豫 算

第 24 條 豫算費目内ノ支出ハ會長之ヲ專行ス

豫算費目ノ流用ハ常議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第 25 條 會長ハ常議員會ノ定ムル所ニ依リ主任者ニ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第 7 章 會 誌 其 他 刊 行 物

第 26 條 本會ハ毎月土木學會誌（以下單ニ會誌ト稱ス）ヲ發行ス

第 27 條 會誌以外ノ印刷物ノ刊行ハ常議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第 28 條 會誌其他ノ刊行物ノ寄贈先ハ常議員會ニ於テ之ヲ定ム

第 8 章 講 演 會 其 他 ノ 會 合

第 29 條 本會ハ毎年 3 回以上講演會其他ノ會合ヲ開催ス

第 30 條 本會ハ毎年 1 回以上見學視察旅行ヲ行フ

第 9 章 委 員 會 及 委 員

第 31 條 本會ハ必要ニ応シ常議員會ノ決議ヲ經テ委員會ヲ設クルコトヲ得

委員ハ會長之ヲ囑託ス

委員ノ任期ハ 1 年トス但シ重任スルコトヲ得

第 32 條 本會ハ必要ニ応シ各地ニ地方委員ヲ設クルコトヲ得

第 10 章 職 員

第 32 條 會長ハ有給ノ職員若干名ヲ任用スルコトヲ得

第 11 章 雜 則

第 34 條 本會ハ土木工學又ハ土木事業ニ就キ特ニ功勞アル者ニ對シ常議員會ノ決議ヲ經テ之ヲ表彰スルコトヲ得

第 35 條 本會ハ會誌所載ノ論說報告ニシテ優秀ナルモノニ對シ常議員會ノ決議ヲ經テ賞牌ヲ贈ルコトヲ得

第 36 條 支那ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第 37 條 本規則ヲ變更セムトスルキハ總會ニ於テ全會員ノ 1/20 以上出席シ其 3/4 以上ノ同意アルコトヲ要ス

會 告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐入りますが、御本人に御注意下さるか、本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員

荒川 參太郎君
 礪 增 能君
 丸 林 筑郎君
 栗 田 益 吉君

稻 葉 彌 吉君
 張 惟 和君
 村 田 清君
 古 賀 亮 一君

木 村 貫 一 郎君
 陳 發 棟君
 安 西 榮 太 郎君

小 林 源 次君
 藤 原 讓君
 山 本 保 之 助君

准 員

和 泉 高 殿君
 田 中 武 次君
 大 森 鶴 吉君
 菊 池 三 吉君
 野 口 金 太君
 田 代 岩 平君
 高 瀬 太 吉君
 矢 野 鷹 雄君
 丹 羽 賢 象君
 濱 崎 禎 四 郎君
 水 原 馨 文君
 山 田 政 次 郎君
 多 田 安 三 郎君

池 田 乙 次 郎君
 坪 井 基 君
 佐 藤 與 吉君
 栗 田 忠 治君
 萬 斯 選 君
 福 島 保 君
 高 橋 理 三 郎君
 吉 見 胤 隆君
 吉 田 二 億君
 平 本 源 太 郎君
 宮 田 肇 君
 横 田 清 治君
 濁 川 武 雄君

池 田 角 太 郎君
 小 川 彌 一 郎君
 徐 三 善 君
 小 林 義 雄 君
 關 佳 夫 君
 船 橋 貞 一 君
 武 田 惣 一 郎君
 中 野 順 太 郎君
 袁 汝 誠 君
 藤 村 禮 士 君
 村 田 勝 次 君
 石 原 三 郎君

柿 崎 景 久 君
 緒 方 政 雄 君
 萩 原 官 六 君
 田 所 要 吉 君
 曾 我 進 君
 山 尾 茂 夫 君
 本 橋 二 郎 君
 難 波 壽 一 君
 劉 作 禮 君
 城 内 清 太 君
 片 岡 幡 君
 齋 藤 賢 策 君

會 費 拂 込 通 知

3 月 は 第 1 期 分 會 費 拂 込 の 時 期 に な つ て ゐ ま す か ら 近 日 中 に 集 金 郵 便 又 は 振 替 郵 便 を 差 し 向 け ま す 。 旅 行 等 に て 不 在 の 場 合 も 拂 込 に 支 障 な き 様 御 配 慮 を 願 ひ ま す 。

會 告

図書室及び娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及び雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。イタリー、ベルギー、ハンガリー、ノールエー、シヤム等の土木雑誌も備付けてあります。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月31日 自午前9時至午後8時、自7月21日至8月31日 及土曜日自午前9時至午後4時、
自1月1日至7月20日

但し 日曜日及び祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しましたが、現在所有の図書は未だ充分とは云へませんから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(實物大)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 25 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に残部皆無となり配布不可能の場合があります。

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部) (円)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18		—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	—	—	1.00
21		—	—	*	*	*	—	—	*	*	*	*	*	1.00
22		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
	第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)													1.50
	第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)													1.30
	東京市内外交通に關する調査書													3.00
	震害調査報告書(1,2,3)													18.00
	応用力学聯合大會講演集													1.00
	鉄筋コンクリート標準示方書													0.50
	同上 解説													1.00
	土木工学論文抄録													3.50
	土木学会誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 12 號)													0.50

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	{裏表紙 3 面對 向及廣告初頁}		1 回 1 頁	40 円
			1 回 1 頁	70 円
		裏表紙 3 面	1 回 1 頁	70 円
	色アート		1 回 1 頁	60 円

○指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII, NO. 3, MARCH, 1936.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	19
Papers.	
On the Calculations of the Stresses in the Straight Gravity Dam. <i>By Tōzirō Isihara, C. E., Member.</i> <i>Itirō Konisi, C. E., Assoc. Member.</i>	267
On the Element of Water Surge Tank Design, and Improvement by gradual Enlargement of its Cross Section. <i>By Takuzō Enomoto, Member.</i>	291
Discussions.	315
Notes on Matters of Interest.	325
Abstracts of Selected Articles.	345
Patent News.	393

OFFICE

No. 6. 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.